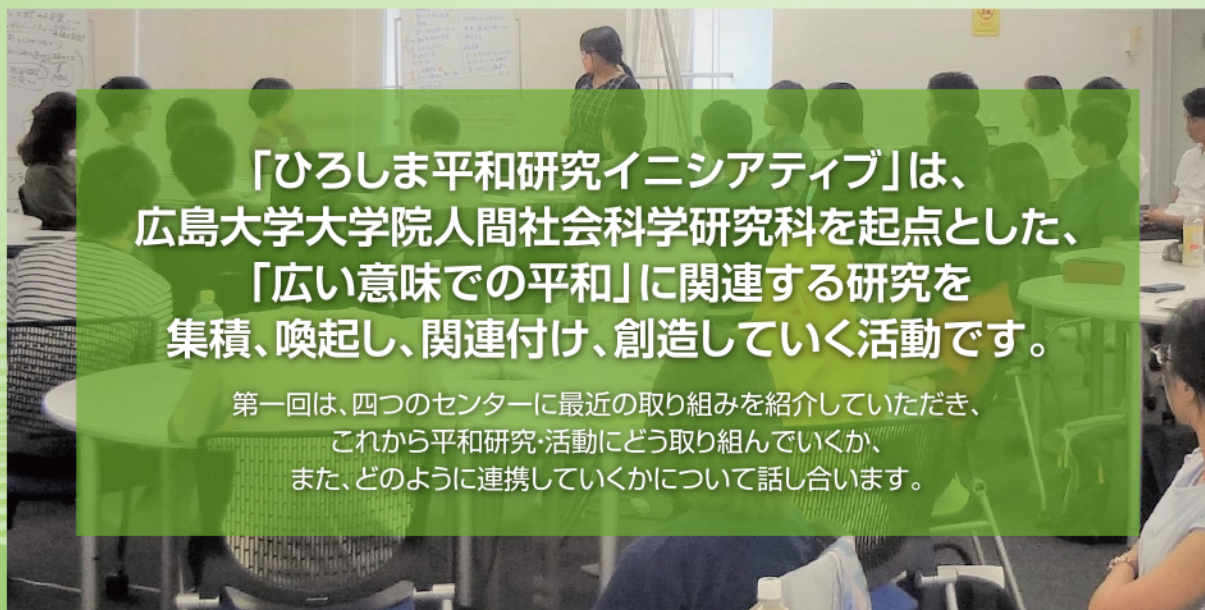


広島大学

人社系センター合同セミナー

～各センターは何をしているのか、平和研究・活動にどう関わっているか～



「ひろしま平和研究イニシアティブ」は、
広島大学大学院人間社会科学研究科を起点とした、
「広い意味での平和」に関連する研究を
集積、喚起し、関連付け、創造していく活動です。

第一回は、四つのセンターに最近の取り組みを紹介していただき、
これから平和研究・活動にどう取り組んでいくか、
また、どのように連携していくかについて話し合います。

内容

13:00～14:30

4センターの最近の取り組みの紹介

14:30～15:30

4センター長と大芝先生によるシンポジウム
(ヒロシマの平和にどう取り組むかについて)

15:30～16:00

フロアとの質疑応答

コメン テーター

広島市立大学
広島平和研究所所長

大芝 亮



登壇者

広島大学
ダイバーシティ
研究センター



広島大学ダイバーシティ
研究センター長

大池 真知子

広島大学
平和センター



広島大学
平和センター長

川野 徳幸

広島大学
教育ビジョン
研究センター



広島大学教育ビジョン
研究センター長

草原 和博

広島大学
応用倫理学
プロジェクト
研究センター



広島大学応用倫理学プロ
ジェクト研究センター長

後藤 弘志

2021年

3月27日(土) 13:00～16:00

オンライン開催

参加無料

お申し込み

こちらのURLかQRコードで事前にお申し込みをお願いします。▶

<https://bit.ly/3sKihDp>



「平和の研究、活動」を続ける広島大学の四つのセンターをご紹介します

▶ 2016年設立。他大学の「ダイバーシティ推進室」が行政組織であるのに対し、本センターは研究組織。学内外の多様な関係者と連携して、研究、教育、社会活動を実施しています。テーマはジェンダー平等、性の多様性尊重、多文化共生、障がいや病いのある人の包摂、資源の公正な使用など、多岐にわたります。とくに企業でのダイバーシティ調査に実績があります。2021年度は自治体でのジェンダー調査、東広島での多文化共生のワークショップ、広島での平和のワークショップなどを予定しています。



大池 真知子 おおいけ まちこ (広島大学ダイバーシティ研究センター長)

専門はアフリカの文学とジェンダー。主著「エイズと文学—アフリカの女たちが書く性、愛、死」(2013年世界思想社)。お茶の水女子大学大学院博士課程修了。博士(人文科学)。1999年広島大学総合科学部講師。2017年総合科学研究科からダイバーシティ研究センターに異動。2018年センター長。

広島大学 ダイバーシティ 研究センター

▶ 広島大学平和センターは、広島大学の全学的施設として平和学に関する研究・調査と資料の収集を行うことを目的として、1975年7月8日学内措置により平和科学研究センターとして発足しました。平和学の学術的研究機関としては我が国最初のものであり、国立大学では現在なお唯一の研究機関です。2018年4月1日より機能強化が図られ「平和センター」と改称しました。平和学に関する研究・調査及び資料の収集を行うとともに、研究成果を教育の場に還元して平和に関する教育を推進しています。



川野 徳幸 かわの のりゆき (広島大学平和センター長)

広島大学平和センター センター長/教授
広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了 博士(医学)。
広島大学原爆放射線医学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学研究センター准教授等を経て、2013年6月から広島大学平和科学研究センター教授。2017年4月より同センター長併任。専門は原爆・被ばく研究、平和学。広島・長崎原爆被害、セミパラチンスク、チェルノブイリの核被害について社会医学的視点から調査研究を行っている。

広島大学 平和センター

草原 和博 くさはら かずひろ (広島大学教育ビジョン研究センター長)

兵庫教育大学助手、鳴門教育大学講師・助教授・准教授を経て、2009年より広島大学大学院准教授。2014年より教授。専門は教科教育学、社会科教育学。世界の教育言説やカリキュラムを比較考察し、民主主義社会における主権者育成の原理と社会科教育の成立根拠を究明してきた。最近では、教師の意思決定メカニズム、概念ベース及びプロジェクトベースの授業デザインならびに教師の養成・研修の研究にも取り組んでいる。2017年より教育ビジョン研究センター(EVRI)の拠点リーダー、センター長。



広島大学 教育ビジョン 研究センター

広島大学 応用倫理学 プロジェクト 研究センター

後藤 弘志 ごとう ひろし (広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター長)

専門は現代ドイツ哲学(主にフッサール現象学)、人格概念、徳倫理学。主著「フッサール現象学の倫理学的解釈」(ナカニシヤ出版、2011)。
広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。Dr. Phil. (ドイツ・トリア大学)。
広島大学大学院文学研究科教授(2010)、広島大学大学院人間社会科学研究科教授(2020)、2018年より広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター長。

▶ 広島大学応用倫理学プロジェクト研究センターの目的は、生命・環境・医療・情報・平和など、現代社会において緊急かつ重要な諸問題にスポットを当て、哲学・倫理学の観点から根源的に検討し、問題解決の方向を探ることにある。本センターはこれらの問題と取り組む国内外の研究者と年2回の研究会を開催し、その成果を研究誌「ぶらすしす」(1998年から現在までに通巻第21号まで刊行)に取りまとめている。

▶ EVRIは、(1)教育学・教科教育学・心理学とその隣接領域を横断する教育・社会貢献活動、そして国際交流を支える「人間社会科学研究科の附属教育研究施設」としての活動と、(2)教育デザインに関する研究・開発を推進し、平和・市民性教育、教師教育・授業研究、STEAM・IB教育、Inclusive・日本語教育、の研究を戦略的に進める大学全体の「インキュベーション研究拠点」としての活動、これら2つの活動を担っています。

コメンテーター

大芝 亮 おおしば りょう (広島市立大学広島平和研究所長)

米国イェール大学政治学博士課程修了。上智大学法学部助教授、一橋大学法学部助教授、オクスフォード大学・プリンストン大学客員研究員、一橋大学法学部・法学研究科教授、国立民族学博物館地域企画交流センター客員教授、国際日本文化研究センター共同研究員、一橋大学評議員、一橋大学国際・公共政策大学院院長、一橋大学法学研究科・法学部法学研究科長・法学部長、一橋大学理事・副学長、青山学院大学国際政治経済学教授、青山学院大学国際センターセンター長を経て、2019年より広島市立大学広島平和研究所教授、広島市立大学広島平和研究所所長。国連、世界銀行、ユネスコの三つの機関について、国際政治における非国家的アクターの役割と課題の視点から分析。グローバル・ガバナンスの概念について、現実主義の国際政治理論の視点を取り入れることにより、どのように修正・発展させることができるかを研究。

広島市立大学広島平和研究所

広島平和研究所は、公立大学法人広島市立大学の附属研究機関として、1998年4月に設置されました。被爆地・広島における学術研究機関として、これらの課題の分析・考察に取り組み、国際平和文化都市・広島の「知」の拠点としての役割を担います。これまでの成果・取り組みを学問として体系化していくことにあると考え、被爆体験に基づく「広島・日本発の平和学」を作ることを目指します。そして、さまざまな機関や人々と連携して、市民、そして世界への情報発信を展開します。2019年度に立ち上げた大学院・平和学研究科において、平和の創造に貢献する人材育成に引き続き取り組んでいきます。教育への参画を通じて、研究所のメンバーもまた学んでいきます。



「平和研究イニシアティブ」は活動目的を達成するべく、今後も継続していきます。次回は、2021年夏頃開催します。